

IPv6情勢とJPNICの対応姿勢

(社)日本ネットワークインフォメーションセンター
事務局システム部開発課
宇井 隆晴

IPv6 のこれまで

- IPv4の持つ問題を根本的に解決するため、次世代のプロトコルとしてIPv6を標準化(RFC化)
- IPv6 実験ネットワーク“6bone” における継続的な実装・運用実験による技術的な実績。
- 日本でもWIDEを中心として“6bone-jp”がIPv6を運用中。

IPv6 の現在

- プロトコル仕様が決定し、現在は周辺技術（ルーティングやDNSなど）の開発・標準化が進められている。
- アドレスの割り振り開始（=IPv6 正式運用スタート）に向けて、各種ポリシー策定などの準備段階にある。

IPv6 アドレスの割り振りポリシー

- 1999年5月28日付けで RIR が IANA に対して「IPv6 アドレスの割り振り・割り当てに関するポリシードキュメント(暫定)」を提出。
 - ◆ まだ内容が十分ではなく、今後 IETF などでの議論が続けられる予定。
 - ◆ このポリシーが IANA に承認された後に、IPv6 アドレスの割り振りが始まると思われる。

<http://www.apnic.net/drafts/ipv6/ipv6-policy-280599.html>

JPNICの取り組み方針

■ IPv6 はこれからのインターネット発展のための重要な技術

- ◆ IPv6 関連の情報収集・翻訳・公開
 - ◆ <http://www.nic.ad.jp/jp/internet/doc-j/ipv6/v6-rir-policy.html>
- ◆ IPv6 関係者の意見交換会の開催
- ◆ RIRのポリシー・会費構造などに対する意見提出
- ◆ JPNICデータベース・DNSのIPv6対応
- ◆ JPNICサーバのIPv6ネットワークへの接続

サービスとしてのIPv6実装検討

- JP プライマリ DNS への IPv6 アドレス情報の追加
 - ◆ 実験的運用という位置づけで情報登録を開始
 - ◆ 公式セカンダリサーバも含めたサポート
- サービス運用という面からの設計・実装の検討
 - ◆ 実験サービスで得た経験の反映
 - ◆ 既存サービスとのあり方

JPNIC IPv6 Contact

IPv6情報登録の実験運用への参加、お問い合わせ先

ipv6-support@nic.ad.jp